

神奈川異グ連の活動状況を伝える機関紙 <第66号>

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川異業種グループ連絡会議専務理事(事務局長) 芝 忠
〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センター5F
TEL045-633-5142 FAX045-633-5194
Email:iguren@kanagawa-iguren.com http://www.kanagawa-iguren.com

「テクニカルショウヨコハマ」と異グ連との関わり

芝 忠

「神奈川県下最大の工業技術・製品総合見本市」と題された『第29回工業技術見本市』が2月13日から3日間開催されました。いわゆる「テクニカルショウヨコハマ2008」です。3日間の**来場者数は30,122人**、出展企業数(含団体等)は**321社**、**小間数は398**ですが、過去10年間の平均来場者数が31,848人ですのでやや少なめです。しかし出展企業数、小間数は最大。1998年(平成10年)当時は146社、220小間ですからほぼ倍の出展といえます。テクニカルショウは1979年から開始されたものですが、当時はまだパシフィコ横浜展示ホールがなく産業貿易センターの1Fで開催されていました。小間の幅は今の1/2、1.5m四方でした。また土曜日を含めて4日間開催され、大手企業の出展が目立ちました。逆に自治体の補助金(神奈川県と横浜市のほか川崎市も参画していた)なので、「もっと中小企業の参加を」という強い要請があり、神奈川県工業試験所で異業種交流を推進し始めていた筆者に、主催者である神奈川県産業貿易振興協会から相談がありました。

折しも県内に異業種交流が盛んになってきた時期と重なっていましたから、企業参加でなく、グループ参加で小間数を稼ごうという狙いで、始めて本格的な異業種グループの出展が企画されました。当時の団体出展は横浜市のグループと横浜工業館の2グループのみ(当時、原則は企業参加に限定、団体参加は認められていなかった)でしたから、新たに5グループの参加で「異業種交流」が脚光を浴びました。川崎のハイテクリバーの事務局だった志茂武氏(当時神奈川県川崎地域行政センター商工部在籍)から「**せっかく集まるから交流大会をやろう**」と提案され、筆者がいた神奈川県工業試験所と横浜工業館が予算を出し合い、第1回の交流大会が開かれました。これが神奈川県大会の始まりで、以降17回開催されました。1983年2月のことで、12グループ、70名の参加、その席上でグループ連合体の構想が出てきて、5月に工業試験所の事業として「神奈川県異業種交流フォーラム」を結成、10グループが参加。翌84年2月の第2回大会が270名の参加で「異グ連」の結成と「全国規模の交流大会」開催を決議、県が予算化。**4月に神奈川県異業種グループ連絡会議が23団体により設立**、同年9月、全国から2,400名の参加で全国大会が神奈川県民ホールその他で開催されました。従ってテクニカルショウと異業種交流団体の参加は「異グ連」と切っても切れない関係と言えます。最高時、団体出展が小間数の過半数を超えたときもあり、主催の横浜市長が「異業種交流展示会として全国最大規模」と自慢したこともありました。さらに他県の参加についても、筆者が事務局を担当していた'85神奈川異業種交流プラザが山形県米沢電機工業会と地域間交流を行っていた関係から、例外的に米沢電機工業会の出展が認められていました。1994年(平成6年)に中小企業団体中央会の全国大会が横浜市で開催されたとき、それに合わせて秋にもテクニカルショウを開催しました。大変好評でしたが、他県からぜひ自分たちも参加させて欲しいという声が出て、すでに米沢電機工業会の出展という先例があったため、解禁されました。現在は10を超す都県からの参加があります。さらに異グ連の紹介による石川県の出展製品が伝統製品など軽工業製品なのでこれも「工業技術」の範疇かどうかの議論を呼びました。

このようにテクニカルショウの出展範囲や地域など主催者内での議論となる話題を異グ連が問題提起をしてきたとも言えます。現在はグループ・団体出展は当たり前のこととなっています。今後は再び大手企業の技術紹介や、食料品製造業(県内の比率は高い)の出展、参加者同志の交流などが望まれます。

産学官交流サロンのコーナー

おなじみ尾上町サロン

日時:毎月第一・三金曜日(3月21日、4月04日、18日) 会場:神奈川中小企業センター5階異グ連事務所
連絡問合せ:神奈川異グ連事務局芝、島津龍男、八幡、鈴木 045-633-5142 会費:現物も大歓迎

第14回西湘サロンの開催案内

日時:2008年5月12日(月)18:00~20:30
場所:あいおい損保小田原支社(瀬戸ビル)3F
話題:中小企業と税務
関東学院大学法学部教授 阿部 徳幸氏
参加費:1000円(ビール、おつまみ付)
申込:島津俊、吉池、芝 tel 045-633-5142

第25回三浦半島経済人サロンの開催案内

日時:2008年3月19日(水)18:00~20:30
場所:神奈川新聞社横須賀支社 5F会議室
話題:空き店舗を活用した地域活性化への取り組み
追浜商盛会代表理事 福嶋 仁氏
参加費:1000円(ビール、おつまみ付)
申込:八幡、芝 tel 045-633-5142

第25回サロンよこはま開催案内

異業種交流を韓国にまで拡大して、デザインやものづくりを展開している企業の奮闘記です。

日 時：2008年3月27日(木) 18:00～20:30 参加費：1000円
場 所：ヘリオス関内ビル 2F会議室 横浜市中区元浜町3-21-2 045-222-8282
話 題：**プロダクトデザインとものづくりの共生「日韓中小企業80社によるものづくり」**
申 込：杉本、織方、芝 神奈川異グ連045-633-5142 FAX045-651-8883

かながわ異グ連の会員グループやプロジェクトの状況**まんでんプロジェクト**

千田 JASPA 取締役

- 2月13日から15日までパシフィコ横浜で開催された「テクニカルショウよこはま2008」にまんでんプロジェクトとして共同出展した。出展参加企業は13社であった。産業総合研究所(筑波)が小型ジェットエンジンで飛行する無人飛行機を展示したが、その部品の一部をまんでんプロジェクトで製作しており、その旨の説明パネルが付けられた。併設の出展者セミナーではプロジェクトの報告と、今後の我が国航空機産業の課題について、まんでんから発表を行った。
- 名古屋都市産業振興公社のプロジェクトについて引き続き実現に向け協力を行った。
- まんでん会員企業の企業データベースづくりが進行している。全会員に情報を提出してもらい、受発注取引、研究開発などのパートナー探しに活用することとしている。将来はもっと大きなWEBサイトに構築し、海外にも発信する計画である。会員数は引き続き増加しており、1月末現在で13都道府県、150社となった。

第3回アルメニア人材育成プロジェクト好評にて終了

加藤文男BC

神奈川異グ連が、JICA 横浜から直接委託を受けて実施した「トレーナーズトレーニングコース」の第3回目が、2月13日から28日までの13日間実施し、無事終了しました。

本年度の研修生は、アルメニアの中小企業施策や方針を作成するアルメニア中小企業開発センター(SMEDNC)のスザンナ課長を団長とし、商工会議所ビジネス教育プログラム担当部長、トレーニングやコンサルティングなどを実践するBSP(ビジネスサービスプロバイダー)の社長や中心スタッフ4名から構成された全員で6名(女性4名、男性2名)でした。研修生は、アルメニアにおいて日本人専門家から労務管理、生産管理、マーケティングの研修を受講し、論文審査を経て選抜された人たちが成績優秀の上、意欲の高いメンバーばかりであり、研修初日から質問が多く、講師の説明もたびたび中断した。更に、研修時間を早めて欲しいと要望が出るほどの熱心な受講は、各企業を驚かせた。

今回の研修では、知識を学んでもらう形の講義を少なくし、ケーススタディと工場診断、工場見学を主としたプログラムで構成した。これらの研修をベースに彼ら研修生が講師となって、現地の若いコンサルタントに研修をすることになっています。現地での研修で得た知識を基に、日本の訪問先でその実践状況をつぶさに見て、確認することができたはずである。日本の工場の各現場で得た経験を現地での研修に十分に活かすことができるものと期待されます。

今回の訪問先は、神奈川中小企業センターを最初に、横須賀市の**農業体験型総合公園ソレイユの丘**、自動車修理工場**株式会社ボディショップZERO**、豆腐製造業の**有限会社高梨商店**、精密機械製造業の**東邦精機株式会社**、金属製品加工業の**株式会社セプト・ワン**、大型ディスプレイ製造業の**山友工業株式会社**と非常にバラエティに富んだ業種に案内することができた。各訪問先では、ご多忙の中、社長様が直接お時間をとって経営方針や理念、ご苦労話など直接お話しただくと共に、心からの歓迎の気持ちとおもてなしをしていただきました。研修生全員が日本人のホスピタリティに感激し、大の日本ファンとなって帰国されました。これも訪問先をご紹介いただいた神奈川異グ連及び神奈川中小企業センター関係者の皆様のご協力のおかげであります。

ご対応いただいた訪問先の皆様と共に訪問をご紹介いただいた関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。(アルメニアプロジェクト事務局加藤)

第83回日韓ビジネス協議会開催案内

高橋BC

1. **日 時**：3月26日(水)・・・15:00～17:00 定例会
2. **場 所**：神奈川中小企業センタービル・・・5階 会議室
かながわ異業種交流センター(異業種グループ連絡会議) TEL：045-633-5142
3. 基調講演：「5年後に生残るために、今打つべき手」・・・安東社会保険労務士事務所代表 安東弘勝氏
連絡申込先 TEL&FAX：045-311-0094 高橋迄 MAIL：mtakahas@tb3.so-net.ne.jp

第82回日韓ビジネス協議会（2月20日）報告

高橋導徳BC

- 日本企業の紹介／(株)市川工業・・営業 高木宏昌氏（超精密機械加工、表面処理、自動制御盤など）
 - ・1984年創立、事業内容は機械加工から人材派遣まで多角的な経営で何でも面倒を見る珍しい企業である。
- 韓国とのビジネス交流支援について・・日韓中小企業情報交流センター 所長 讃井善郎氏
 - ・日本と韓国の中小企業が相互にビジネス交流をしたいという意欲・関心が強いことからその期待にこたえるために本センターは開設された。
 1. 言語、商習慣の違いなどの壁を取り払い、ビジネス交流を促進する。
 2. 企業間の情報の提供、商談通訳の手配、マッチングを無料で提供する。
 3. 契約締結時には法律の専門家を紹介する。などをサポートする。
- メイン講演：最近の日韓ビジネスについて・・(株)スリーテック 代表取締役 久野啓一氏
 - ・当グループでは日韓連携60社が共に協力して物作りを進めている。昨年11月の「神奈川県―韓国・京畿道との異業種交流会」以来、商談が継続している企業2社を紹介された。また「デザインから試作・量産までのお手伝い」のクライアントを募集している。世界各国での導入実績を持つユニジットの各種インクジェットプリンターを取り扱っている。工程やコストの大幅な削減が期待でき、製造装置のコンパクト化で可能である。

シフト21活動状況

有村BC

「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループとして、業種や業態を問わない幅広い交流を目的に定例会を開催しております。(原則第二火曜日開催、場所はかながわ県民センター)

3月定例会は、当会会員でコーチングオフィスアップル代表の飯田和孝氏に「基礎コーチング入門～コミュニケーション力アップから営業力アップまで」というテーマでお話を伺いました。コーチングの考え方や基本スキルなど、ビジネスにすぐに使える実践的内容で大変参考になりました。4月定例会は、「ゲームソフト開発業界の現状(仮題)」について株式会社ハイファイネット代表取締役三並慶佐氏にお話を伺います。シフト21ではゲストの皆様参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問合せは有村までお願いいたします。

スターリングエンジン研究会

八幡敬和

当研究会の活動目的から法人設立の必要性を感じていたが、機運もみなぎり今般、NPO法人設立に向けて始動を開始した。

「日本スターリングエンジン普及協会」設立のための発起人集会在都道府県会館で、2月29日全国から40名が集まり盛大に開催された。集まった発起人の中から設立準備委員が選ばれ、NPO法人認証申請を内閣府へ4月末頃を目途に進めることで合意された。

関連イベントのお知らせや、会員からの投稿などのコーナー**21世紀国際交流会主催 3月特別企画**

- 日 時：3月20日(木・春分の日) 午後1時半～5時 (開場は午後1時) ●参加費：1500円
- 場 所：北区赤羽会館4階大ホール 東京都北区赤羽南1-13-1 電話03-3901-8121
- プログラム
 - ・講演：「イラク戦争と世界、日本」 東京大学名誉教授 奥平康宏氏
 - ・報告：「イラク戦争の真実、戦闘に参加して」 元米陸軍兵士 ジョー・ウィーラー氏
イラク戦争に反対する帰還兵の会 (IVAW)
 - ・報告：「今イラクは ホットな現地取材報告」 フリージャーナリスト 志波玲氏
- 問合せ：日本ベトナム友好協会 事務局 本吉良吉 045-201-2582

イラク戦争5年 どうする日本は

本吉良吉

軍・多国籍軍によるイラク戦争が始まってから、3月20日で5年になりますが、十数万の米軍は今も駐留・占領を継続、泥沼の内戦状態がつづいています。日本の政府・与党はその米国に全面協力。イラク戦争とは何か、イラクは今どうなっているのか。憲法擁護を掲げる「九条の会」の呼びかけ人の一人、憲法学者の奥平康宏さん、イラク戦争に米陸軍兵士として参加、今、「戦争に反対する帰還兵の会」(IVAW)に参加して米国内でたたかっているジョー・ウィーラーさん、これまでにイラクを何度も取材し、この三月にも現地取材されるフリージャーナリストの志波玲さんをお招きし、お話を聞きながら、イラク戦争と世界、そして日本について、考え、話し合いたいと思います。IVAWメンバーの来日講演は今回初めて。折しも、米国でも、3月にIVAWなどによる全国的な反戦行動がおこなわれます。歴史的な集いにぜひご参加ください。

詳細はHP<http://www.iea21-japan.org/>ご覧ください

第12回・国際交流支援協議会

加藤めぐみ・協議会会長

本年も、ご支援いただけますように宜しくお願い致します。久しぶりとなりました、春休み子供のための国際交流会を企画いたしました。“木の粘土で遊ぼう！乾くと木になる粘土でオリジナル掲示板を作ろう♪”お知り合いで小学生の方、あるいは外国人のお子様がいらっしゃいましたら、お声掛けいただけますと幸いです。

日時：3月28日（金）10：00～12：00（受付9：30から） 場所：横浜市中区 区民活動センター 研修室

対象：小学生 20名 参加費：500円

内容：**木の粘土を使って、オリジナル掲示板を作りながらの楽しい交流会**

参加の際の持ち物：はさみ・ねんどへら・紙袋大

主催：特定非営利活動法人 IES 国際交流支援協議会

申込：045-222-6205 メール yrc@ies-world.com 申込締切：3月25日まで、定員20名

論壇

連載第2回

歴史を学ぶ—中世という時代—

かながわ異グ連議長 南出健一

そのとき「蓮如」が布教活動の道具にしたのは民・百姓でも読めるよう自ら書き記した「カタカナのお文」でした。東北・関東をはじめ各地の「郷・村の講」あてに発信されます。特に畿内から北陸にかけては瞬く間に「お文」の効果が発揮され「門徒衆」は次々と本願寺の組織に組み込まれました。同時に村の治安を司る小領主や地侍までもが戦闘集団として帰依します。その勢力は拡大の一途をたどり、遂に荘園を管理するため都から派遣されていた地頭や領国支配する守護大名の年貢収奪への抵抗運動に転化していきます。今までの土着的「国一揆」「徳政一揆」まで呑み込む広域な宗教集団「一向一揆」として駆り立てられていくのです。加賀国で蜂起した20万ともいわれる加賀、能登、越前、越中の一揆軍は「進者往生極楽 退者無限地獄」を旗印にして守護大名の名門 富樫政親を攻め滅ぼし、「加賀は百姓の持ちたる国のように…」してしまいました。蓮如にとって、この事態に至ることをもっとも危惧していたといわれています。

ひたすら「俗人的布教活動」に徹してきた蓮如が「お叱りのお文」を持ってしても彼らの激発は手の施しようもない「大衆エネルギー」になっていたのです。自ら切り開いた「吉崎道場」から身を引く以外なくなってしまう。

蓮如没後、そのブレーン達は「弱きを救う念仏仏教」が巨大化変質化するに従い一方の「権力集団」として時の天皇公家一門との閥閥を強め体制護持に汲々となっていきます。あたかも戦国動乱の「下克上の嵐」の先触れを思わせる状況の中で、地元門徒勢力と本願寺勢力は絶え間なく内紛を繰返しながらも100年の長きにわたり「尾山御坊」を中心に「領国支配体制」を固めたのです。

権謀術数渦巻く乱世とはいえ日本史上唯一の「仏教王国」を成しえたのは「暗黒の中世」という時代の持つ特異なアナーキー性にあつたといえましょう。

本願寺は各地の戦国大名と力の均衡を保ちながら勢力維持を図ります。それでも信長による天下布武との対峙は避けられず「真宗王国」は瓦解への方向を辿りながら中世の終焉と近世封建制への「道しるべ」となります。それでもなお「浄土真宗」は時々の権力と妥協しながら揺るぎない「民衆仏教」としての地位を確保し500年の今日に至ったのです。了

事務局のコーナー

ご当地検定（ボケ防止にどうぞ！）

“川崎産業検定（初級）”が3月9日（日）に実施され、約350人が受験した。今年中に上級試験が実施されるとのことである。また6月22日（日）には“丸の内検定”が丸ビルで実施される。主催者は「丸の内はビジネス街のイメージが強いが、江戸からの歴史もあり多彩な側面を持つ。検定を通じて街の様々な表情を知ってもらいたい」としている。今秋には“多摩・武蔵野検定”、来年2月には“中央区観光検定”が予定されている。考えてみればご当地の産業、観光、歴史などを知ることで、広域異業種交流の味もさらに深まることと思う。ボケ防止の効果もありそうで、時間の許す限り挑戦したいと思っている。（小野川）

神奈川県異業種グループ連絡会議 交流アドバイザーが詰めておりますので気軽にご連絡ご相談ください（無料）

【月】 島津 龍男 村上 嘉男 【火】 八幡 敬和 児玉 英二 【水】 芝 忠 杉本 明子

【木】 八幡 敬和 松井 利夫 【金】 芝 忠 島津 龍男 【土、日、祭日】は休業です。

〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル5階 神奈川異業種グループ連絡会議事務局

t 045-633-5142 F045-633-5194 URL : <http://www.kanagawa-iguren.com> e-Mail : iguren@kanagawa-iguren.com

皆様からのご投稿をお願いいたします。（会報編集担当）mail t-onogawa@pro.odn.ne.jp 小野川へお送りください。

神奈川異グ連への連絡問合せは、事務局当番者 tel 045-633-5142 fax 045-633-5194 芝、八幡、島津(龍)、杉本、児玉へ